

公開実用平成3-26706

⑨日本国特許庁(JP)

⑩実用新案出願公開

⑪公開実用新案公報(U)

平3-26706

⑫Int. Cl.⁵

B 65 D 3/02
5/26

識別記号

C 庁内整理番号
6694-3E
6540-3E

⑬公開 平成3年(1991)3月19日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全頁)

⑭考案の名称 包装用箱

⑮実願 平1-87221

⑯出願 平1(1989)7月25日

⑰考案者 増田 宜保 東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内

⑲出願人 凸版印刷株式会社 東京都台東区台東1丁目5番1号

⑳代理人 弁理士 市之瀬 宮夫

明細書

1. 考案の名称

包装用箱

2. 実用新案登録請求の範囲

底板の左右両側縁及び上下両側縁にそれぞれ外側板、額縁板、内側板及び係止板を順に連設し、対向する一組の前記内側板の両側縁にそれぞれ連結板を連設し、かつ前記外側板の高さを内側板の高さよりも高く設定し、さらに前記外側板の両側端に折線によって区画される折込部をそれぞれ設け、所定部分を順次折り曲げて二重壁の箱状に組み立てた後、隣接する外側板の前記折込部同士をそれぞれ折り曲げ重合し、前記外側板を外方に突出させてなることを特徴とする包装用箱。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は二重壁の包装用箱に関し、特に外側板が外方に突出し、かつコーナーの外側板隣接部分が内方にくぼんだ形態の極めて装飾性に優れた包装用箱に関するものである。

公開実用平成3-26706

[従来の技術]

二重壁構造のいわゆるダブルウォールカートンは、その外観性及び箱としての堅牢性の観点から、従来、贈答用を始めとして多数包装用箱に使用されていた。

[考案が解決しようとする課題]

しかし、従来の包装用箱には高い装飾性を備えたものは無く、消費者に高級感を与える包装用箱が望まれていた。

そこで本考案は上記従来の課題に鑑みなされたもので、新規で高い装飾性を備え、しかも丈夫で製造も容易な包装用箱を提供することを目的とする。

[課題を解決するための手段]

上記目的を達成するために、本考案の包装用箱は、底板の左右両側縁及び上下両側縁にそれぞれ外側板、額縁板、内側板及び係止板を順に連設し、対向する一組の前記内側板の両側縁にそれぞれ連結板を連設し、かつ前記外側板の高さを内側板の高さよりも高く設定し、さらに前記外側板の両側

端に折線によって区画される折込部をそれぞれ設け、所定部分を順次折り曲げて二重壁の箱状に組み立てた後、隣接する外側板の前記折込部同士をそれぞれ折り曲げ重合し、前記外側板を外方に突出させてなることを特徴とする。

[作用]

本考案の包装用箱は上記構成により、外側板が外方に例えれば湾曲状に突出し、かつコーナーの外側板隣接部分が内方にくぼんだ新規でしかも極めて優れた装飾性を備えた形態に組み立てられるので、消費者に高級感を与え、贈答用などの包装用箱に好適なものである。さらに本考案の包装用箱はダブルウォールカートンの基本構造を有しており、箱として丈夫であると共にその組立ては従来のダブルウォールカートンと同様にして行える。

[実施例]

以下、添付図面に従って本考案の実施例を説明する。

第1図は本考案一実施例を示す展開平面図、第2図は本考案一実施例における組立過程を示す要

公開実用平成3-26706

部斜視図、第3図は本考案一実施例の組立完成状態の斜視図、第4図は第3図に示す組立完成状態の要部断面図である。

第1図において、底板1の左右両側縁にはそれぞれ折線21～24を介して外側板2、額縁板3、内側板4及び係止板が順に連設され、また底板1の上下両側縁にはそれぞれ折線25～28を介して外側板6、額縁板7、内側板8及び係止板9が順に連設され、さらに該内側板8の両側縁にはそれぞれ折線29を介して先端に係止切込み10aを有する連結板10が連設されており、該連結板10の内側板8と連設する側の下端部と額縁板7の両端上部とは切込み10bによって遊離されている。なお、ここで外側板2、6の高さMは内側板4、8の高さNよりも高くなるように設定されている。また、外側板2、6の各両側端には円弧状の折線Lによって区画された折込部11、12がそれぞれ設けられ、該折込部11は側縁中央に係止突起a、その両側に突部cをそれぞれ有し、また折込部12は側縁中央に係止凹部b、その両

側に突部cをそれぞれ有している。

以上の構成に係るプランクスより包装用箱を組み立てる方法について説明すると、通常のダブルウォールカートンの組立てと同様にして、まず外側板6、額縁板7、内側板8及び係止板9をそれぞれ折線25～28を介して順に内方へ折り曲げ、次いで各連結板10を内側に折り曲げ、対接する連結板同士を係止切込み10aにより係止させる（第2図参照）。次に外側板2、額縁板3、内側板4及び係止板5をそれぞれ折線21～24を介して順に内方へ折り曲げ、さらにコーナーの各折込部12を折線lを介して内側に折り曲げ、次いで各折込部12上に各折込部11を折り重ね、折込部11の係止突起aを折込部12の係止凹部bと係合させる。

このようにして第3図に示すような包装用箱が完成する。本実施例の包装用箱は第3図及び第4図に明らかなように外側板が外方に湾曲状に突出し、かつコーナーの外側板隣接部分が折込部11、12の折り重ねによって内方にくぼんだ如き新規

でしかも高い装飾性を備えた形態となる。なおこの外側板の湾曲状突出状態は折込部を折り曲げることによって確実に維持できるので、例えば使用時に箱の形態がくずれてしまうようなことは無い。

本実施例では折込部11に係止突起aを、折込部12に係止凹部bをそれぞれ設け、これらを係合させるようにしており、この係合状態は必ずしも設けなくてもよいが、外側板の突出状態をより確実に維持する点からは設けた方が好ましい。

また外側板は本実施例の如く湾曲状に突出するような形態だけでなく、例えば第5図に示すように、折込部を区画形成する折線をくの字状とし、このくの字状の折線Pの屈曲点同士を結ぶ折線30、31を外側板2、6に設け、組立て時に外側板を断面くの字状に突出させる形態とすることもでき、かかる場合も新規かつ高い装飾性を備えた形態となる。

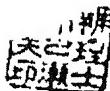
[考案の効果]

以上詳細に説明したように、本考案の包装用箱は外側板が外方に突出し、かつコーナーの外側板

隣接部分が内方にくほんだ如き新規でしかも極めて高い装飾性を備えた形態であるため、消費者に高級感を与え、購買意欲を惹起せしめることができ、特に贈答用などの包装用箱として好適なものである。また本考案の包装用箱はこのような装飾性を備えた形態であるにもかかわらず、通常のダブルウォールカートンと同様に極めて簡単に製造することができ、しかもダブルウォールカートンの基本構造を有しているため、箱として丈夫である。また本考案の包装用箱の外側板のいわゆる突出状態はコーナーの折込部によって確実に維持されているので、使用時に箱の形態がくずれてしまうような不都合は生じない。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案一実施例を示す展開平面図、第2図は本考案一実施例における組立過程を示す要部斜視図、第3図は本考案一実施例の組立完成状態の斜視図、第4図は第3図に示す組立完成状態の要部断面図、第5図は本考案の他の実施例を示す展開平面図である。



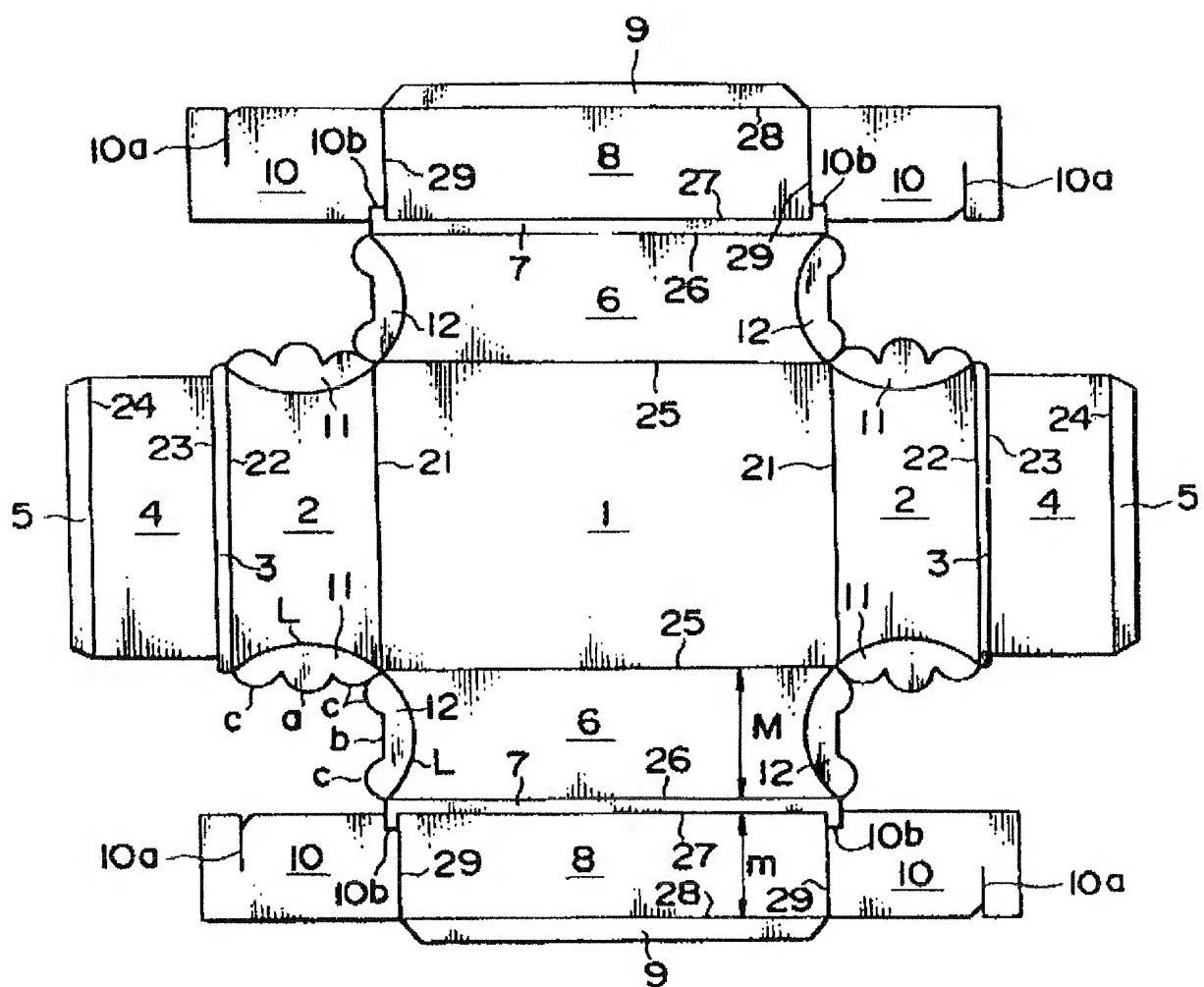
公開実用平成3-26706

- 1 … 底板
- 2 , 6 … 外側板
- 3 , 7 … 領縁板
- 4 , 8 … 内側板
- 5 , 9 … 係止板
- 10 … 連結板
- 11 , 12 … 折込部

実用新案登録出願人 凸版印刷株式会社
代理 人 弁理士 市之瀬 宮夫



第一圖

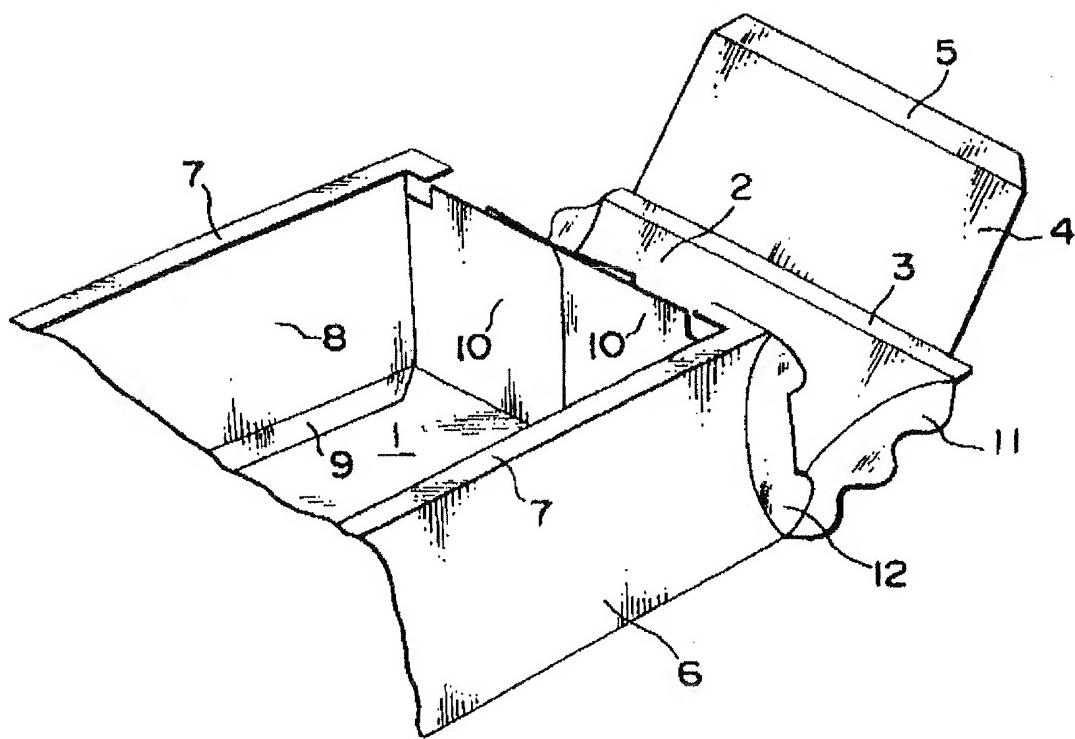


6.3

実用新案登録出願人 凸版印刷株式会社
代理人弁理士 市之瀬吉太郎

2003年1月22日

第 2 図



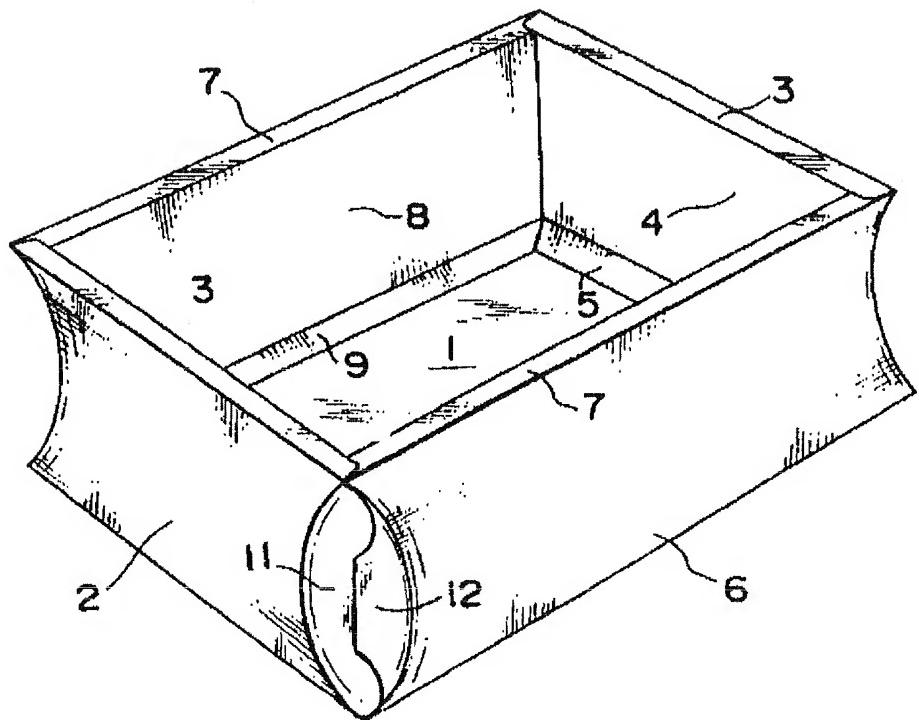
64

実用新案登録出願人 凸版印刷株式会社
代理人弁理士 市之瀬富夫

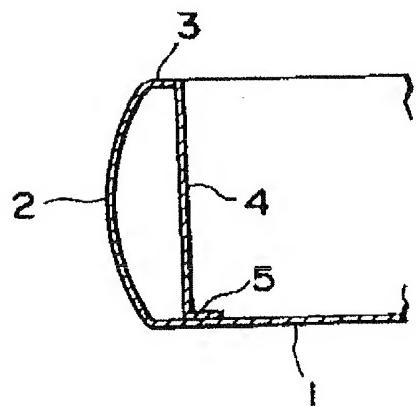
東京
市

実用 3-26706

第3図



第4図



65

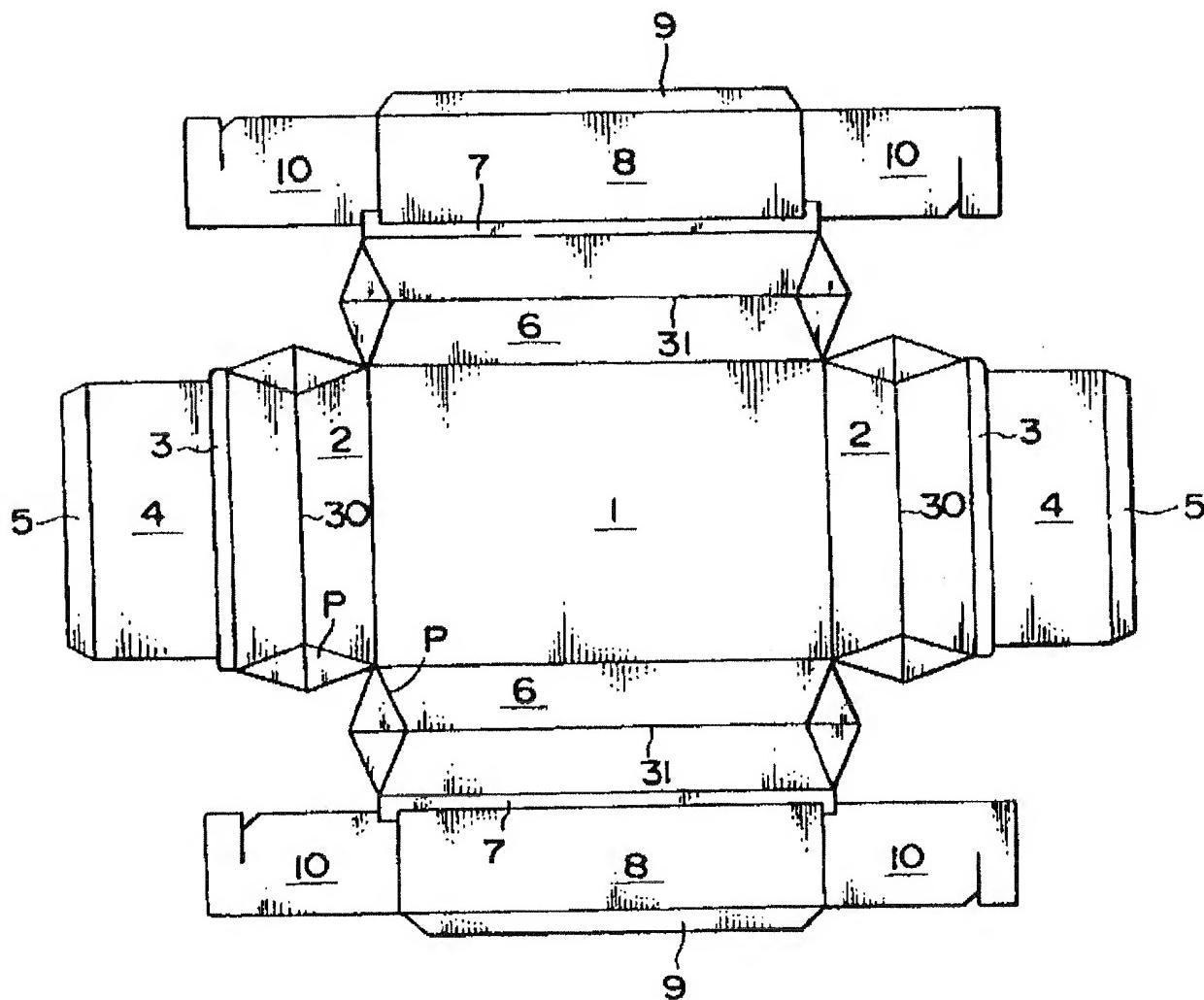
実用新案登録出願人　凸版印刷株式会社

代理人弁理士　市之瀬宮大輔

特許事務所

昭和43年2月7日

第5図



66

実用新案登録出願人 凸版印刷株式会社

代理人弁理士 市之瀬吉

日本特許

実用3-26706